

## “包括的”矯正治療について考える

佐奈正敏

矯正治療の目標は、咀嚼、嚥下、発音等の機能を回復することによって患者の健康およびQOLの向上に資すること、とされています。その中であって、包括的矯正治療とは、既存の矯正治療のみでは問題を解決することが極めて難しい場合に他科との連携によって総合的に行うものをさす事が一般的であり、さらには、成長発育段階を考慮した筋機能療法、言語治療も包含されます。すなわち、様々な患者におかれた背景を考慮して行われる総合的な矯正治療といえます。

そもそも矯正治療は歯科の一分野であり、総合的な視野をもって計画されるべきですが、矯正歯科は診断や治療のプロセスが複雑で、治療が長期間にわたることも影響し、他科から独立した分野に見られがちです。一方、現代の矯正治療の適応範囲は、年齢、状態ともに従来に比べて大きな広がりをみせており、補綴、歯周、口腔外科といった視点なくしては最良の診断を見いだす事が難しくなっています。

顎位に変化があるかもしれない症例にどのように対処したらよいのか、歯周病を伴った不正咬合をどのような手順で診断したらよいのか、小児の成長発育のなかで矯正治療はどのような順序で考えたらよいのか？

個々の患者は複数の問題を包含している事が多く、包括的な見地にたつと矯正治療の診断は複雑です。本日は他科との関わりを含んだ症例を供覧しながら、これからの包括的矯正治療について考えていきたいと思っています。

### (略歴)

- 1991年3月 愛知学院大学歯学部卒業
- 2001年1月 名古屋矯正歯科診療所院長就任
- 4月～ 薫育学園名古屋デンタル衛生士学院非常勤講師
- 2006年4月 学位(歯学)取得
- 2007年1月～ 愛知学院大学歯学部歯科矯正学講座非常勤講師
- 2013年4月～2014年12月 日本舌側矯正歯科学会(JLOA)会長

### (資格等)

- 日本矯正歯科学会 認定医, 専門医
- 日本成人矯正歯科学会 認定医, 専門医, 指導医
- World Federation of Orthodontists (WFO) member,
- World Board of Lingual Orthodontists (WBLO) member